



## 真和の森

## こころの相続



F様の最期に寄り添って

### 看取り介護とは

看取り介護とは、身に迫った死を避けられない状態にある人に対しての介護のことです。

肉体や精神の苦痛を緩和させつつ、人としての尊厳を残したままの生活支援を目的とします。

### 笑顔、微笑みが見られ、心が和む

介護の仕事をはじめて2年がたちますが、今でも亡くなられたご利用者F様に、サポートしてあげることができなかった悔しさがこみ上げてきます。

介護の現場に入りたての頃、はじめはご利用者様と、どう接すればいいのかどう会話を交わせばいいのか分からず戸惑っていました。



そうした中、F様は、自らお話されることはなかったのですが、顔を合わせるといつも笑顔を見せてくれました。

こちらから、問いかけると「はい」と気持ちよく返事を返していただき、ニッコリ頷いてもらったものです。旦那さんのお名前を聞くと「竹四郎」と必ず答えてくださり、家族愛を実感したものです。

こちらの心が折れそうになった時や忙しくて余裕がない時などにも、Fさまの笑顔に、とても癒されました。

### いつもと様子が違う

そのF様ですが、突発的に高熱を出されることがありましたが、長引かず、翌日には平熱に下がる事が度々ありました。

福町サブリーダー 永倉 玲子

ところが、ある日の夕食時、いつもと違うので検温すると39.6度の高熱でした。すぐに医務担当に連絡し、指示された薬を服用してもらいました。熱は、すぐに下がり、夜間も熱を出すこともなく、血圧、酸素飽和度も問題ありませんでした。



この時も、突発的な発熱で、翌日には平熱に戻って、良くなるだろうと思っていました。

しかし明け方の午前4時30分頃、排泄介助にお部屋に伺った際、いつもと様子が違い、問いかけに反応もなく、息苦しそうなお様子が見られたため看護師に連絡を入れました。

### 少し離れた瞬間

F様は看取り介護を希望されている方でした。看護師に報告している最中にも酸素飽和度が下がり、「苦しいですか」と伺うと、F様が頷かれました。そして、ほんの2、30分の間に呼吸が止まりました。

私は、F様のそばに佇んだままで、手を出すことなど何らできませんでした。

その時、以前にも同じようなことに遭遇したことを思い出し、辛さが増してきました。

それは別のご利用者さまでしたが、深夜の巡視の際、居室から呻き声が聞こえてきたのでお声がけすると「苦しい」と言われ、酸素飽和度が80%を切っていました。すぐ看護師に報告し酸素吸入を開始。看護師から「このまま様子を見ましょう」と言われ、他のご利用者様の排泄介助のため、その場を離れました。でも気になり、30分ほどしてお部屋に戻ると、すでに呼吸が止まっていたのです。

私は排泄介助のため、席を離れたことを後悔しました。何もしてさし上げることが出来ないかもしれませんが、ただもっとそばにいてあげればよかったと思います。

今回で2度目。

どうして、なぜ、もっと早く気が付いてあげられなかったのかと思うと、いたたまれなく、あの笑顔に癒されてきたのに、もう会うこともできない寂しさで涙が止まりませんでした。

これまでも何人かの看取り介護を体験してきましたが、自分が思っていた以上に、人間の死に遭遇することは辛く、思い出すたびに涙が出てきます。

## 苦痛を取り除きたい

介護の仕事をしている限り、これからも同じ場面に遭遇し、同じように何もしてあげられないもどかしさを実感することになるかも知れません。

死期が近づいているご利用者様に対して、身体的・精神的苦痛を取り除いて、最後の瞬間まで、その人らしく穏やかに自然な形で人生の最後を迎えてほしいと切に願います。

そのためにも、自分自身が、もっと成長していかなければと思う毎日です。

そしてこれからもご利用者さまに寄り添っていきたいと思います。

## 真和の森の『今』

昨年から続いているコロナ禍の中、利用者様とご家族の面会が長い間、実現できていません。



リモート面会には積極的に取り組んでますが、やはり一日も早く安心して面会が出来るように願う日々です。



成人式も遅れ遅れで3月の中旬に行われたとのこと。お孫さんの晴れ姿も、はじめは窓越しの面会でしたが数十秒だけのシャッターチャンス。



感染症予防のため思うようなイベントが出来ないのがとても残念です。



川沿いの満開の桜と菜の花を満喫できた作品です。両脇の盆栽はリーダーの力作です。



青空に満開に咲いた桜をスタッフや利用者様と共に心を込めて作りました。幹は和紙を染めて立体感を出しました。

# あの未曾有の震災から10年・・・

東日本大震災の発生から10年が経ちました。未だ復旧への道半ばであります。災害は『忘れない』ということが一番の備えになろうと考え、今一度、京悠会としての当時の取り組みを簡易ではありますが振り返ってみたいと思います。

3月11日以降、寸断されていた東北自動車道は応急処置を完了し、4月に通行が再開されました。

その折、テレビ報道にて石巻赤十字病院の窮状を知りました。4月5日、日付のかわった頃に、救援物資を届けるため円野を出発しました。



私たちはあの日見た光景を忘れることはありません。

街の中に住民の姿はなく、海から乗り上げた船が道路を塞ぎ、住宅などは瓦礫を残し跡形もない状態でした。

普段からは想像もつかない恐怖の街なみに変わり果ててしまい、その光景に「言葉が見つからない」とはこの時のことでした。



人影が消えた街に、自衛隊の方々が駆けつけ、被害復旧に向けた活動を始めていました。その姿を目にして心強く感じました。



2か月後、赤十字病院の院長先生から救援物資のお礼状が届き、そこには「医療スタッフは、災害に遭っている自分の家族や家に駆けつけることも出来ず、おにぎり一つで三日三晩現場で奮闘していました。」と書かれていました。



私たちの目の前に広がった光景はテレビの中の映像ではなく、すべてのものが破壊されてしまった現実でした。

災害は、特定の地域ではなく日本全国に突然やってきます。

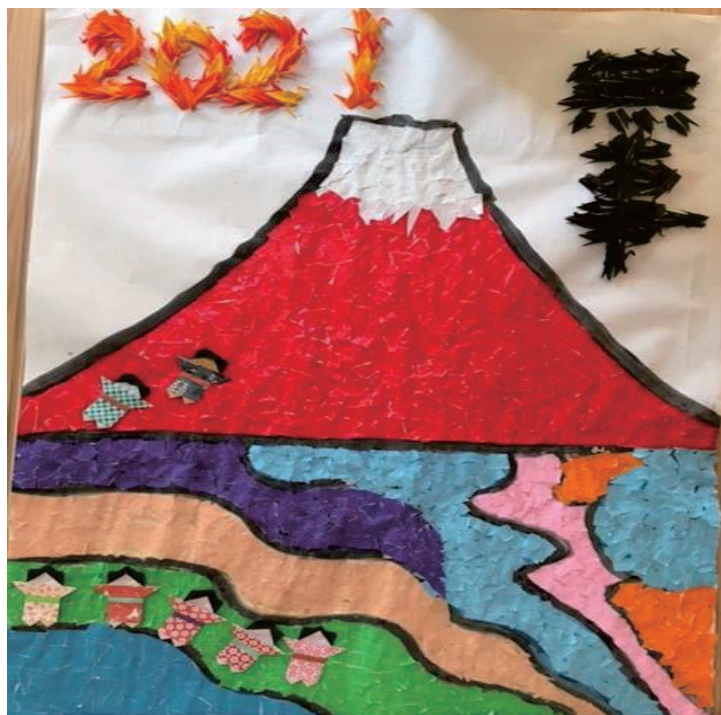
教訓を生かし今後の災害対策に繋げていく所存です。

## 【 デイサービスセンター アオイ 】

### 「赤富士」の切り絵貼り

手を糊でべとべとにしなが、ちぎった折り紙を真剣に一切れ一切れ貼って完成しました。「富士」と「無事」をかけた訳ではありませんが、コロナに勝つ、2021年も無事に過ごして生きましよう、という願いを込めて作成しました。

ちなみに、「2021年」と「無事」は小さな折り鶴を作成して貼っています。利用者職員との願いが籠っています。



#### 【お知らせ】

デイサービスセンター管理責任者の三浦が真和の森へ異動になり、後任に新井えみ子が就任しました。

引き続きお世話になりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



### 手作り恵方巻



デイサービス アオイだからこそできる自家製「恵方巻」です。

愛情120%注入した手作りの恵方巻を、南南西を向いて利用者様方に食べて頂き、皆で今年の無病息災を祈りました。



去年の桜は雪をかぶっていましたが今年の桜は、喜んでい  
るようにみえます（コロナの収束を願って・・・）。

編集後記

東日本大震災、あの日あの時の出来事は決して忘れません。10年前と同じく今年もさくらが満開になりました。  
きっと10年後も花たちは咲くことでしょう。皆々様の明るい未来に思いを馳せます。 S・M

葵クリニック

〒359-0001 埼玉県所沢市下富1202-1  
TEL04-2937-5221 FAX04-2937-5220

デイサービスセンター アオイ

〒359-0001 埼玉県所沢市下富1202-1  
TEL04-2937-5233 FAX04-2937-5220

障害者支援施設 円野

〒357-0011 埼玉県飯能市川崎458  
TEL042-975-3300 FAX042-975-3311

特別養護老人ホーム 真和の森

〒359-0001 埼玉県所沢市下富1206-1  
TEL04-2990-1133 FAX04-2990-1144

<http://www.kyoyukai.jp/> 